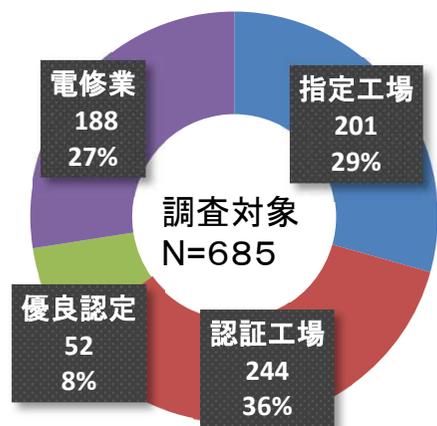


スキャンツールの使用状況及び活用 状況のアンケート調査検討

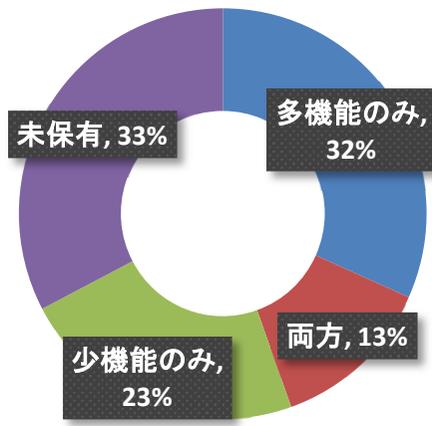
第9回 自動車整備技術の高度化検討会

平成27年9月25日

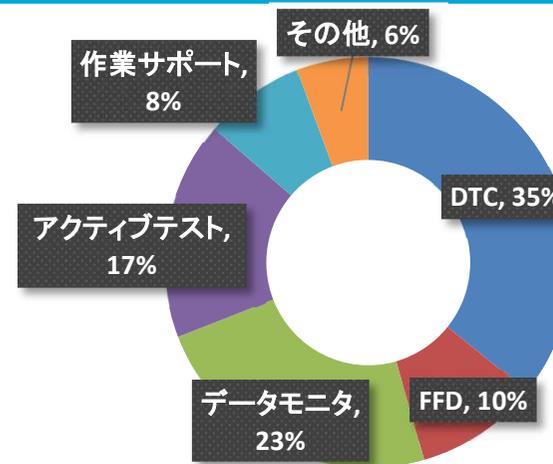
1. 前回アンケート調査概要(平成23年汎用スキャンツール普及検討会)



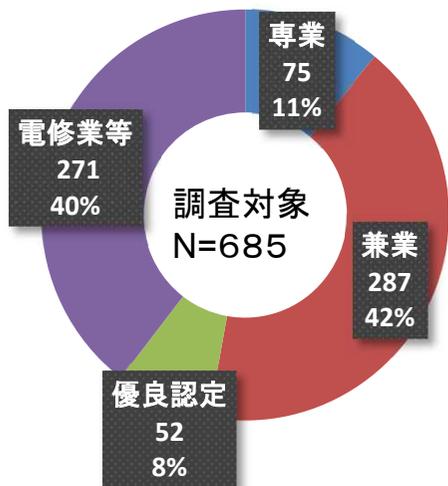
工場資格別の調査対象



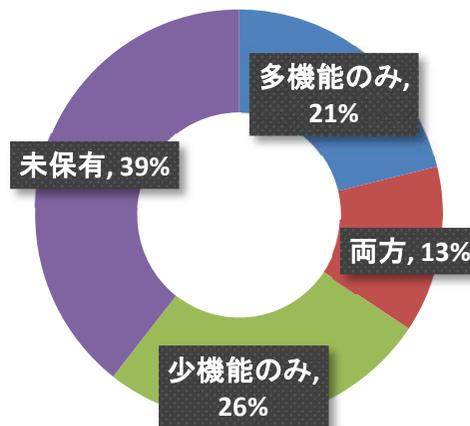
保有率調査(指定・認証)



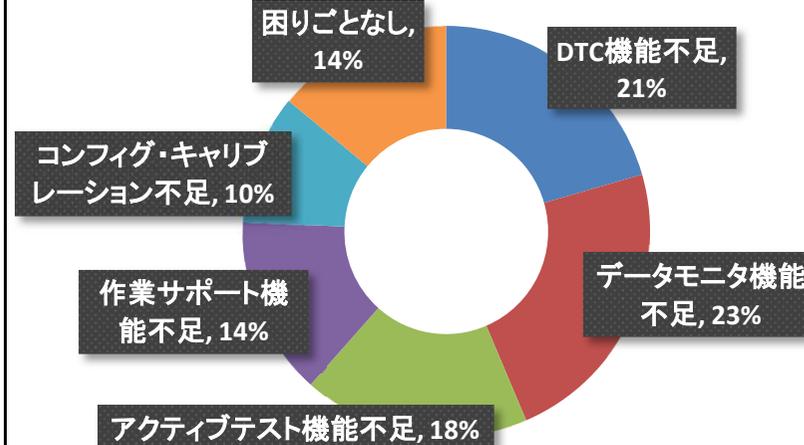
よく活用している機能(国産乗用)
(※複数回答を含めて総数として換算)



業態別の調査対象



保有率調査(専業・兼業)



対応できずに困った作業(国産乗用)
(※複数回答を含めて総数として換算)

その他要望

※ 調査サンプルは、ディーラー、自家(主として自企業が保有する車両の整備を行っている事業場)を除く。

- ・ 本体価格、ソフト(ランニングコスト)価格を低減してほしい。
- ・ 何台も持たなくてもいいように、兼用性を高めてほしい。
- ・ エンジン、SRS、ABS以外のシステム対応を希望。
- ・ 作業サポート、アクティブテスト、コンフィグ等への対応を希望。

- ・ OBD II コネクタ付きの車両は全車対応してほしい。
- ・ 24V系の中型・大型車両の機能の充実を希望。
- ・ 診断に関わる整備情報(診断フローなど)の提供を望む。
- ・ 購入・普及促進策を講じてほしい。

2. アンケート調査概要

目的・背景

・平成23年4月に取りまとめた汎用スキャンツール普及検討会で実施したアンケートから約5年経っており、自動車ユーザーの環境志向やエコカー減税等によりハイブリッド車等の次世代自動車が増加していることによる整備ニーズの変化や、平成25年から3年間実施した経済産業省と国土交通省の連携事業であるスキャンツール補助などにより一定程度普及が進んだことが考えられることから、現在のスキャンツールの使用状況及び活用状況を調査する。

調査対象事業者

・前回調査と同様に日整連、電整連等を通じてその会員の事業者依頼する。

サンプル数

・回収率を40%程度と想定して、前回調査のサンプル数(=685)と同程度以上の数とする。

期間

・第9回(今回)検討会終了後に、1ヶ月程度とする。

アンケート内容

・原則、前回の調査した内容である、事業場の別によるスキャンツールの使用頻度、事業場によるPCやインターネットの利用状況、スキャンツールの活用方法・機能の他、5年間で整備ニーズが変化していると考えられるハイブリッドやESC(横滑り防止装置)やASV(先進安全装置)等について標準仕様機での対応状況についても調査を行う。

留意事項

・昨年度行った調査※1によると、先進安全装置の一つである、衝突被害軽減ブレーキの点検・整備の有無について、ディーラー系事業者は50%超が経験あると答えたのに対して、専門等の事業者についてはわずか4%となっている。また、ACC(車間制御機能)の整備についてもディーラー系事業者は40%超が経験あると答えたのに対して、専門等の事業者についてはわずか2%である。

以上より、現状において、専門等の事業者がこれらの装置に対して対応出来ているか、対応できずに困っているかどうかには焦点をあてるのではなく、あくまで事業者のスキャンツールの使用状況及び活用状況を把握するためのものとして考える必要がある。

※1 平成27年3月 (独)交通安全環境研究所「安全装置に係る電子制御技術に対する自動車検査の可能性に関する調査研究(平成26年度 軽自動車検査協会 受託調査)」